

編集部＝竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三 knziid@gmail.com 090-6665-3750

トピックス 部会活動全般的に再開 14期生臨時講座月一回開催中

今号は4頁

○15期講座の会場・講師手配など準備も進んでいます。活動報告などの詳細はホームページ（「OSNC」で検索）をご覧ください。会員専用ページへのパスワードは「o（オー）428」です。

十人十色ひろば 今回は、14期スタッフの廣川さん登場です

廣川信一さん（12期生／14期講座スタッフ）

私の自然と関わりの原点は小学生の時に読んだ「シートン動物記」（S31発行）である様に思います。今まで陶芸、クラシック音楽、テニスなどいろんなことに興味を持ってきましたが、リタイア後、偶然のカレッジとの巡り逢いは今考えると偶然ではなく必然だった様に思います。子供の頃からの思いがピツタリとハマって各講座を凄く楽しませてもらった2年間でした。又、人生の終盤に、この年までお会いしてきた人達とも違った方々（同期生の方々、スタッフの方々など）とお付き合いをさせて頂いて、ほんとに感謝です。今までに経験したことのないこのコロナ禍、幸い私の住する千早赤阪村には里山の雰囲気はまだ残ってくれており、ウォーキングを兼ねての1人、2人（家人と）観察会を楽しんでいます。



春にはウグイス、フキノトウ、夏はホトトギス、カラスウリの花、秋にはハチクマの渡り、秋海棠、集く(すだく)虫の声に月見酒・・・冬はフクロウも鳴いてくれます。自然の移ろいの楽しさに感謝する毎日です。

しぜん訪ねて 今回はウォーキングに最適な 高野街道 についてTMさんより



京都、大阪、堺から高野山へ向かう4本の街道（東高野、中高野、下高野、西高野街道）は、最終的には河内長野で1本の**高野街道**となり紀見峠を越え、橋本からは**町石道**（慈尊院～大門）や**京大坂道**（学文路～不動坂～女人堂）等へとつながっている。平安時代は皇族や公家が、中世には武士や庶民も高野詣に利用、江戸時代になると脇街道として整備され、三日市宿等の宿場も置かれ、大いに賑わった。

京都・石清水八幡を起点とする**東高野街道**（古代の南海道が前身）は、洞ヶ峠・生駒山西麓を南下し、富田林寺内町を経由し、河内長野へ入る大阪府内で一番長い街道（石清水八幡～河内長野駅前、約55 km）で、普通高野街道と言えば東高野街道を指すことが多い。

堺・大小路を起点とする**西高野街道**には、高野詣の旅人の便宜を図るため、堺・大小路～高野山・女人堂間14里（約55 km）に、13里石（堺榎元町）から1里石（高野山神谷）まで、ほぼ1里ごとに里程石が建てられている。



安政4年（1857）、茱萸木村の小左衛門と五兵衛の二人が発起人となり建立したもので13本すべてが現存している。

小生もコロナの自粛が解けた時、久々にこの西高野街道を3日かけて歩いてみた。

ウォーキングにいい晩秋の今の時季、街道沿いの自然に触れ、道標に立ち止まり、歴史に思いをはせながら、街道歩きをされるのはいかがですか。（TM）

この季節になると、冬鳥のカモ達が日本に渡ってきて、河川や池は急に賑やかになってきます。

日本で普通に見られるカモは30種程で、カルガモを除いて全てが渡り鳥です。雄は種類ごとに派手な色彩や模様を持ちますので、これが識別の決め手となります。そのカモの仲間も水面採食ガモと潜水採食ガモの二派に分かれますが、潜水しない水面採食のカモは足が体の中央にあり、体も軽いので水面から直ぐに飛び立つことができますし、陸を歩きまわり採食や休息もします。潜水採食ガモは水中で泳ぎやすいように足が体の後ろ側につき体も重いため水面を助走しないと飛び立てませんし、陸を歩くことも苦手です。近くの池や水辺で多く見られる種は水面型のヒドリガモやマガモ、コガモと潜水型のホシハジロ、キンクロハジロで、いる場所は少なくなりますが長い尾羽のオナガガモやしゃもじ形の大きな嘴を持つハシビロガモは遠くからでもよく目立ちます。またバーダーで人気なのが、さらに数の少なくなるナポレオンハットのヨシガモや全身派手なオシドリとパンダ顔のミコアイサでしょうか。



オナガガモ

ヨシガモ



ミコアイサ

カモの雌は皆よく似ていて識別が難しいですが、同じ種の集団をつくりますし、結構♂♀ペアで行動しますので、♂を見てその♀と分かります。カモは他の多くの鳥と違って日本での越冬期間中にそのシーズンの相手を見つけ、春と一緒にシベリア方面へ旅立つのですが、繁殖相手は毎年変わります。オシドリもその例外ではありません。この冬はカモの採食や求愛の行動をじっくり観察してみたいはいかがでしょう！

ワンダーワールド

「いのちの営み探検部会」の活動／選 今回は ススキについて土保さんより

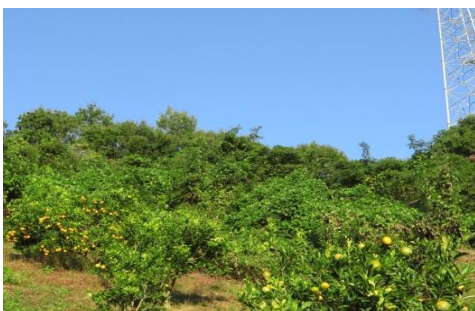
岩湧山のススキの見頃は終わっただろうか？住まいの近辺では、穂に花を付けたもの、果実をつけているもの、タネを飛ばして枯ススキになっているものと様々。開花時には受粉のために風を受け易くしているのか、重みでか枝が水平に開いている。だが、花が終わると枝は上に向き、タネの旅立ちを待っているようだ。花穂(かすい)をよく見ると、沢山の小穂(しょうすい)が集まっている。一つの小穂には、黄色の葯の雄しべが三つ。柱頭が褐色～暗紫色のブラシ状の雌しべが一つ。果実が熟すと基毛が開き、小穂を付けている長梗(長い小梗)や短梗(短い小梗)という小梗(しょうこう)から外れ、風に乗り飛んで行く。ススキ草原の様な草本主体の群落では普通に見られた「秋の七草」が、今や絶滅の危機。草原が管理されなくなり、独自の生物が絶えていくのは悲しいことだ。



よく似た植物の「オギ」と比べてみると、

ススキ			オギ	
	野山の日当たりの良い所	場所	河原や湿地	
	60～200cm	高さ	100～250cm	
	互生、中央脈があり幅は2cm以下、長さ50～80cm	葉	互生、中央脈があり、幅は1～3cm、長さ50～80cm	
	叢生して、株立ち	茎	地下茎が長く伸び、節から茎を単生する	
	長さ20～30cm	花穂	長さ25～40cm	
	芒(のぎ)がある。毛は小穂とほぼ同じ長さ、	小穂	芒(のぎ)がない。毛は小穂の3～4倍、色は銀白色	

11月に入り里山を吹き抜ける風がやや冷たくなりました。



この時期の里山の魅力は、何ととっても、この青空です。

澄み切った空を見ながら、採ったばかりのミカンを味わうのは最高です。

余談ですが、ミカンの皮を乾して風呂に入れた「ミカン風呂」は、たいへん気持ちいいです。

今、ミカン山・畑では草刈りが一段落し、畑作りに精を出しています。キャベツ、白菜、玉ねぎ、苺の苗を植えました。すくすくと育っています。

無農薬、減化学肥料にこだわっていますので、病害虫に負けず無事に育つか心配です。畝に木酢水溶液を撒いてはみましたが・・・。



モグラの食害

大根、人参、小松菜、春菊など、野菜の種も撒きました。小松菜は大きくなるのが速いです。そこそこの大きさに収穫しています。

先日サツマイモを掘りました。掘ってビックリ！芋がかじられていました。

写真を見て下さい。一番大きい芋がかじられて、全く頭に来ます。犯人はモグラ。芋は全体的にまだ小さく、もう少し置いておく方がいいとの助言があり、掘らずに残していますが、またまたモグラにかじられるのではと心配です。

南大阪昆虫記 昆虫部会の方々のリレーレポート 今回は「オオミズアオの思い出」 空保(もくぼ)さんです

あれは7月の雨の翌日、たっぷり湿り気を含んだ岩湧山の中腹、山道の脇にギンリョウソウを発見。その儚げな白く透けた姿に目をみはって歩を進めること10分ぐらい、今度は何とも美しい蝶のような蛾に出会う。近寄っても身じろぎもせず膝のあたりまで伸びた藁に静かに薄緑色の翅を広げている。アゲハ蝶より大きく10cmはあろうか。ギンリョウソウにも通じる幽霊っぽい姿に心を捕まれる。不思議な植物に続く不思議な蛾。すぐさま、昆虫の達人、井上さんに写メを送ると「オオミズアオ」と名前を教えて頂いた。オオミズアオ！(大水青)それにしてもこの美しさはなんだろう？薄いエメラルドグリーンのような翅に眠そうなアーモンド型の黄色い斑紋がそれぞれの翅の真ん中に一つずつ。前翅の上の縁には赤紫色のくっきりとした一本線。そのコントラストが美しい。



オオミズアオ

まるで、赤紫のえもんかけに薄衣がかかっているようだ。頭には羽飾りをつけたような黄色の触覚、お腹側から見ると、白い体毛のやや幅広胴体を赤紫の足がしっかり枝を掴み、支えている。それにしても動かない。この神業の美しき蛾に更に驚きが！・・・なんと口がない！成虫は口が退化しているとのこと。それって、食べたり飲んだりできないってこと！一週間ほどで絶えてしまうそう。せっかくの羽化が交尾と産卵の役目の為だけとは...厳しい運命がより美しさを醸している。

そんなオオミズアオも幼虫の時は愛嬌ある大きい緑のトゲトゲ毛虫。ウメ、リンゴ、サクラ、カエデ等、その辺の樹木の葉っぱをモリモリ食べてポッチャリ。北海道から九州まで、また平地から高原まで広い生育域、住宅地でも見かけられるそう。

蝶類のヤママユ科に分類され、主に東アジアに分布、年二回5月～6月と7月～8月に成虫が見られるとのこと。ちなみに、成虫になると口が退化する蛾は、オオミズアオを含むヤママユ科の他にミノ蛾がいる。カイコ蛾は口はあっても何も食べないらしい。

下山時、あのオオミズアオ、同じ場所に同じ姿でリンという。もう役目は終わったのかしら...何か悲しい。だったら、あの美しさは冥土への旅装束だったのかしら....

オオミズアオ／幼虫



花の少ないこの季節に、山野では**野菊**の花が咲き誇ります。菊は古くから日本人に親しまれてきたとていたのですが、万葉集には全く登場しません。全国津々浦々に多種の野菊が咲いていたはずですが不思議です。

野菊はキク科の中でも**キク属**と**シオン属**の野生種を主に指していますが、同じような頭花のオグルマ属やキオン属、フキ属、ヒマワリ属はその仲間に入っていない。その違いは何でしょう。山溪図鑑「日本の野菊」の著者は、その選定で「野菊」らしく感じられるものをキク科から109種をとりあげたとしていますが、はっきりした定義は無いようです。



ノコンギク



イナカギク



シマカンギク

キクの花（頭花）は、実は**小さな花が多数集まったもの**（集合花）で、花卉のように周りに並ぶ舌状花と中心部に集まる筒状花にはそれぞれに雄蕊と雌蕊が付いています。そして野菊の筒状花は全て黄色ですが、舌状花は白色と黄色、淡紫色の3色があります。平地で身近に出会うことができるのが淡紫色の**ノコンギク**と**ヨメナ**そして白色の**イナカギク**の3種で、さらに里山や低山では**シロヨメナ**や黄色の**シマカンギク**、**アワコガネギク**が見られます。この6種以外にも金剛山や岩湧山等の山地では**リュウノウギク**（白色）、**シラヤマギク**（白色）、**ユウガギク**（淡紫色）が咲きます。この時期には菊によく似た黄色のヤクシソウも咲きますが、これは野菊の仲間ではありません。さて伊藤左千夫の「野菊の墓」はどの野菊だったのでしょうか。

コロナ済んだら行きたいな！

「けん」の旅日記 ⑥

11月 屋久島／巨樹の森



屋久島の森

屋久島の山が一番美しいのは、**薄黄色のヤクシマシャクナゲ**の咲く5月末から6月上旬ですが、この時期は往々にしてドカ雨が襲います。夏場の台風、冬場の寒さ（宮之浦岳は九州最高峰で積雪）も避けたい、となると、訪ねる時期の選定が難しいのが屋久島です。ちなみに関西から宮之浦岳や屋久杉への登山ツアーを組む山旅専門旅行社「山旅人」は4月と11月中心に旅を組んでいるので今回「11月の旅」とした次第です。

「いつ行くか」の悩みを乗り越えても屋久島は行く値打ちのある島です。

トトロの森がある、巨大屋久杉がある、小さな島に**亜熱帯から亜寒帯までの気候がある、多様な生物がひしめき合っている**、（雄大な太平洋を見晴るかす）**海岸野天温泉がある**、何たって**世界遺産の島**なのです。

自然カレッジで初めて山歩きに連れてっていただき、「山にハマって」その高揚期を迎えていた私は、無謀にも宮之浦岳への単独登頂を試みました。民宿を3時に出て大川（おおご）登山口を4時に出発、下山までに11時間余を要した山行でした。

途中、牡のヤクシカが登山道を塞ぎ睨んでいます。「**ジジー人くらいなら負けへんでえ！**」の気迫。こちらも「**ちっこいヤクシカなんかに負けへんでえ！**」と呟きながら、用心のためリュックを前に抱え角攻撃に備えます。5分ほどだったでしょうか、しばしの睨み合いの後、ヤクシカは「**あほくさ、ジジーなんか相手にしてる暇ないわ**」とばかりに、スッと横跳びして道を空けてくれました。

「**やっぱ一人登山は止めとこう！**」ふっと力が抜けてから身に染みました。だが、翌日には怖さを忘れ、大好きな海岸野天風呂に浸かって、「**九州最高峰を単独踏破したんだなあ**」としみじみ喜びを噛み締めた呑気なケンでした。



海岸野天温泉のケン